



色々な形のアンモナイト（所蔵／埼玉県立自然の博物館）

かわはく No.86

CONTENTS

開催案内：令和8年度 特別展「アンモナイト～太古の海からのたより～」…	2
開催予告：スロープ展示「きのこは木の子？秋のきのこギャラリー」 ……	4
開催予告：公開シンポジウム『伝統漁法「瀬張漁」の今を見つめる』 ……	5
お知らせ：特別展スペシャルイベントを開催します ……	6
学芸員コラム：夏の河原と植物 ……	6
学芸員コラム：荒川流域からついに失われたモノ ……	7
学芸員コラム：田んぼのカエルが減っている？ ……	7
イベント情報コーナー 8・9・10・11月 ……	8



開催案内

令和8年度 特別展

「アンモナイト ～太古の海からのたより～」

開催期間:2026年7月11日(土)～9月23日(水・祝)



アンモナイトは、約4億年前(古生代)から恐竜が絶滅した6,600万年前(中生代末)まで、3億年以上にわたって太古の海を舞台に生きていた、渦巻き状の殻をもつ生きものです。アンモナイトには「アモンの石」という意味があり、語源となった古代エジプトの「太陽神アモン」は、頭に渦巻き状に巻いた羊の角をもっています。

「アンモナイト」は18世

紀後半に動物学者によってつけられた名前ですが、1世紀の大博物学者プリニウスはアンモナイトのように巻いた石を「アモンの角」とよんだといわれています。

アンモナイトの多様な形や模様が織りなす美しさは、古くから多くの人の心を魅了してきました。来場いただく皆さんにもその魅力をお伝えできればと思います。



ヘフティコセラス
(フランス・ジュラ紀)

第1章 アンモナイトってどんな生きもの？

アンモナイトは絶滅した生きものですが、その化石について、世界中で多くの調査研究が行われ、実に1万種以上が存在したと考えられています。

本章では、殻の巻き方や太さなどのパターンや、表面の装飾(形)について実物化石と共に解説します。また、「異常巻き」とよばれる、ほどけた形やバネのような形、クリップのような形のアンモナイトも紹介します。

アンモナイトはイカやタコ、オウムガイなどと同じ「軟体動物」の「頭足類」というグループに分類されます。生きていた当時の姿を知るのは簡単



縫合線が美しい
ユーパキディスカス

ではありませんが、今も生きている同じグループの生きものを手掛かりに、その姿を想像することができます。生きていた姿を再現した「復元模型」もありますので、皆さんも想像を膨らませてみてください。

第2章 アンモナイトの生態

アンモナイトがどのように生きていたのかは、いまだ謎に包まれているところも多いのですが、研究によって明らかになってきたこともあります。例えば、アンモナイトの大人と子ども、オスとメスの違いなどです。

また、殻の形によって速く泳ぐタイプと方向転換しやすいタイプの違いがあることや、表面の装飾(形)によって浅い海と沖合など生息環境に違いがあることなどもわかってきました。ほかに、アンモナイトが食べ

たものや何に食べられたか、ということなども化石からわかってきています。

さらに、「異常巻き」アンモナイトの、種類によって決まりのある「規則性」について、日本各地の化石と共に解説します。



異常巻きアンモナイト
ニッポニテス

第3章 埼玉県のアモナイト

海なし県として知られる埼玉県ですが、およそ3億年前(古生代)以降の幅広い年代の海の地層が分布しており、かつては海が存在したことがわかっていきます。



2022年に新種として報告された
プロチェロニセラス・ヤジマイ



県内で最も多くアンモナイトが見つかったのは「山中白亜系」とよばれる中生代の地層です。山中白亜系の地層からはこれまでに41種のアンモナイトが見つかっており、その種類からその地層が堆積した時代を詳しく知ることができるため、学術的にも大変重要な役割を担っています。

本章では、埼玉県山中白亜系のアンモナイトをたっぷり紹介するとともに、同じ時代の他の生きものの化石も展示します。かつての埼玉県の海の様子を、これらの化石から想像してみてください。また、ここで紹介する化石にはアマチュアコレクター、矢嶋孝一氏によって採集・寄贈されたものを多く含みます。中には新種として発表された標本もあり、埼玉の化石研究を支える矢嶋コレクションにも注目していただければと思います。

第4章 大集合！世界のアンモナイト

3億年以上の長きにわたり生存したアンモナイトの中でも、アンモナイト目は中生代に大繁栄したグループで、世界の至る所から発見されていま

す。最終章では、中生代の海と大陸の移り変わりの様子や、同じ時代に生きた海の生きものとともに、世界のアンモナイトを紹介します。中には化石になる過程で美しい輝きを得た、「アンモライト」の名前で宝石と

しても知られる

アンモナイト

もあります。

アンモナイ

トが世界中の

海にいたことを

想像しながら見て

みてください。



色鮮やかな
スフェノディスクス

多種多様な渦巻きで人々を魅了し、学術的にも重要な役割をもつアンモナイト。それは確かな記録で地球や生命の歴史を私たちに伝え、さらなる解き明かしを待つ、まさに「太古の海からのたより」なのです。

○サテライトスロープ展示

「化石でたどる 埼玉3億年の海」

(2026年7月11日(土)～9月23日(水・祝))

約3億年前から現代にいたるまでの県内の各地層から発見された海の生物の化石の写真を、いくつかの時代に分けて紹介しながら、かつて埼玉県にあった7つの海の移り変わりをたどります。

アンモナイトが存在した時代の海から、絶滅したあとの時代まで、どのような化石がどこで見つかるのでしょうか。県内の様々な地層の化石を通じて、埼玉県に存在した海について知っていただければと思います。



白亜紀前期の海のイメージ

○特別展 関連イベント案内

異常巻きアンモナイト立体パズルコーナー

展示室には、今回の展示のために作成した異常巻きアンモナイトの立体パズルがあります。成長の段階で巻き方が切り替わる、その成長のようすを想像しながら組み立てにチャレンジしてみてください！



ディディモセラス

ニッポニテス

データ提供・製作：RC GEAR

(学芸員グループ 森圭子・矢嶋正幸)



開催予告

スロープ展示

「きのこは木の子?秋のきのこギャラリー」

開催期間：2026年9月29日(火)～2027年1月31日(日)

秋はきのこの季節です。「きのこ」の語源は、倒木や木の根元から生える姿を子どもに見立てて「木の子」とした説が最も有力とされています。実際に、きのここと木の間にはどのようなつながりがあるのでしょうか。

きのこは、どのように栄養を得るかによって、いくつかの生態的なグループに分けることができます。例えば、落ち葉や枯れ木など死んだ植物を分解して栄養を得ているきのこは、「腐生菌」とよばれます。腐生菌のなかでも特に倒木を強力に分解するきのこは「木材腐朽菌」、落葉を主に分解するきのこは「落葉分解菌」とよばれます。一方、生きた木の根から栄養を得るきのこは「菌根菌」とよばれます。菌根菌からは、宿主(の木)へ水や養分などを与えることで互いが利益を得る「相利共生」を営んでいます。このように、「腐生菌」や「菌根菌」のきのここと木は、まるで親子のような密な関係で結ばれているのです。

今回のスロープ展示では、形や色のきれいなきのこ30種の写真を展示するとともに、県内に分布するきのこを調査・記録している「埼玉きのこ研究会」の活動を紹介します。

展示している写真の多くは、埼玉きのこ研究会の会員が撮影したもので、その中のいくつかのきのこは、2024年に改訂された「埼玉レッドデータブック植物編」に絶滅危惧Ⅱ類あるいは準絶滅危惧種として掲載されています。スロープ展示を通じて、自然環境の変化や、森林伐採や開発などの人間活動によって県内では見られなくなったきのこにも興味を持っていただければ幸いです。



(画像提供：近藤芳明氏)

県内では絶滅危惧Ⅱ類に指定されているルリハツタケ

埼玉きのこ研究会では、夏から秋にかけて月に一度、県内各所で観察会を開催しています。今年の10月4日(日)には皆野町の美の山公園で、11月3日(火・祝)にはさいたま市の秋ヶ瀬公園で観察会が開かれる予定です。観察会では、採集されたきのこを同定したり、きのこの生態や分類についての詳しい話を聞いたりすることができます。研究会では、きのこに関心がある方がいつでも気軽に参加できるよう、1日会員も受け付けています。詳細については、研究会のホームページ(<https://ippon.sakura.ne.jp/>)をご覧ください。



2025年度の秋ヶ瀬公園での観察会のようす

秋、野外できのこを見つけたら、じっくりと観察してみましょう。傘やひだ(傘のうら)、柄の形や模様を図鑑の写真と照らし合わせて同定を試みると理解が深まります。写真やスケッチをとるのも良い方法です。まれに、道端に生えていたきのこが故意に踏み潰されていたり、引き抜かれて捨てられていたりするのを見かけますが、きのこも大切な自然の観察対象です。安直に「毒きのこかもしれないから踏み潰しておこう」「食べられるかもしれないから、とりあえずとってみよう」と思わずに、まずはそっと観察してみましょう。

採集をする際には、その土地の所有者や施設に許可が必要です。また、野生のきのこはたとえ食用であっても鮮度や食べる量、個人の体質や体調によっては食中毒を引き起こすことがあります。食用のきのこに良く似た毒きのこも多いので、野生のきのこはむやみに「とらない」「食べない」「人にあげない」ようにしましょう。

(学芸グループ 板垣ひより)



開催予告

公開シンポジウム『伝統漁法「瀬張漁」の今を見つめる』

当館では、「埼玉の母なる川ー荒川ーを中心とする河川や水と人々のくらしとのかかわり」を理解してもらうための取り組みを、開館以来実施してきました。今年は、これまでの事業をさらに発展させ、荒川における伝統漁法の継承を支援する新たな取り組みとして、公開シンポジウムの開催を予定しています。

熊谷市の荒川では、「瀬張漁」というアユを対象とする伝統的な漁法が行われてきました。もともと荒川各地で実施されていたものですが、現在の継承者はわずか2名だけとなっています。荒川には、こうした危機的状況にある伝統漁法が複数存在していますが、一般にはあまり知られていないのが現状です。今後もこうした伝統漁法を継承していくためには、その存在を周知していくことが喫緊の課題であることから、まずは、シンポジウムを通して伝統漁法の周知を行い、そこで関心を持ってくれた人が、実際の漁に携われるような取り組みに繋げていきたいと考えています。

本シンポジウムでは、当館学芸員の矢嶋正幸が瀬張漁の概要を説明するとともに、川魚文化について詳しい城西大学教授の真野博氏に、荒川の川魚について講演していただきます。後半には、実際に荒川で瀬張漁を行っている川漁師の方々と交えたトークセッションを通じて、現在における伝統漁法の課題と、今後の展望を明らかにしていきたいと考えています。また、瀬張漁の伝承地近くに所在する立正大学熊谷キャンパス(19号館A101教室)を会場としていることから、地域文化に関心のある地元の人たちが大勢参加してくれることを期待しています。

【開催要項】

受付開始(13:00~)

- あいさつ

小川義和(川の博物館館長・立正大学地球環境学部教授)

【第1部(講演)】

- 「瀬張漁とはなにか」

矢嶋正幸(川の博物館学芸員)

- 「川の恵みと人の暮らしー荒川流域の伝統漁法・川魚食・地域の知恵ー」
真野博(城西大学薬学部教授・地域連携センター所長)

【第2部(トークセッション)】

- 「荒川の伝統漁法を守るために」
須永公人(オリーブオイルソムリエ)・真野博・
内田将暉(川漁師)・小彼貞夫(川漁師)
- 質疑応答

終了(~16:00予定)

主催: 埼玉県立 川の博物館

立正大学地球環境学部

後援: FM.クマガヤ株式会社

協力: SAITAMA リバーサポーターズ

公開シンポジウム チラシ

(学芸グループ 矢嶋正幸)



お知らせ

特別展スペシャルイベントを開催します

夏の特別展「アンモナイト～太古の海からのたより～」に合わせた体験イベントを企画しました。7月29日(水)～31日(金)は、「アンモナイト・シーリングシールづくり」を開催します。溶かしたワックスにアンモナイトをモチーフにしたスタンプを押してシーリングシールをつくります。ワックスの色を選んだり、アンモナイトの模様を好きな色で塗ったりできるので、自分だけのオリジナルシールを作ることができます。どなたでも参加できます。

8月26日(水)と9月6日(日)には、樹脂粘土を使ってアンモナイトの模型をつくる「樹脂粘土で



アンモナイトの
シーリングシール

アンモナイトを作ろう」を開催します。こちらは事前申込が必要で、小学生以上が対象です。

各イベントの詳細については、だより裏面もしくは当館のホームページをご覧ください。

今年の夏休みは、親子でアンモナイトに親しんでみませんか？ ご参加お待ちしております。



樹脂粘土で作ったアンモナイトの模型

(経営企画 黛真由美)

学芸員コラム

夏の河原と植物

昨年の冬から春にかけて、かわはく前の河原では、除草と整地に加えて伐木も行われました。6月、植生の様子を観察しに河原へと出てみました。

水ぎわにはツルヨシが群落をつくり、地面を這う匍匐枝を5m以上も伸ばしています。水から離れた砂地には、大きな葉を広げたシロザやオオブタクサがまばらにはえ、既に腰丈を超えるものもあります。細い葉のエノコログサやオオイヌタデも上へ横へと広く葉と茎を展開させています。

一見むき出しとなった砂地も、近づいてよく見ると足の踏み場もないほどにメヒシバやシバなどの細い茎が張り巡らされていました。より多くの日光と生育場所を得るために、上へ横へとそれぞれの方法で巧みに場所取りをしていました。

今は河原の外からこっそりと、毛むくじゃらの太いつるを伸ばしているクズですが、夏にかけて河原を覆い尽くす姿を予感させます。秋にはクズと入れ替わるように、同じつる植物のアレチウリ

が旺盛に繁茂するでしょう。この様子だと、きっと数か月もたてば元の草だらけの河原に戻りそうです。こうした様子を見ていると、植物の繁殖力は伊達じゃないと実感します。



砂地を這うメヒシバとシバ

(学芸グループ 三瓶ゆりか)



学芸員コラム

荒川流域からついに失われたモノ

令和7年(2025)末をもって、荒川流域からついにある「モノ」が失われました。それは「渡し船」です。

公共交通機関としての渡し船は、昭和56年(1981)に金石の渡し場(秩父郡長瀬町)が廃止されたことにより既に失われていましたが、ある“スポーツ”を嗜む人だけが利用できる渡し船が、荒川流域にはそれ以降も存続していました。

そのスポーツとは「ゴルフ」。荒川の河川敷には数多くのゴルフ場が点在しています。それが現在の荒川の特徴の1つでもあります。そのゴルフ場の1つが、河川改修工事にともない営業を終了し、あわせて渡し船の運航も終了してしまったのです。

このゴルフ場では、クラブハウスとコースの間に荒川が流れているため、ゴルファーの人々は渡し船に乗らないとプレーを楽しむことができませんでした。私はゴルフを嗜まないのですが、一度



ありし日の荒川最後の渡し船

だけ、取材でこの渡し船に乗船する機会がありました。今となってはとても貴重な経験です。

一方、利根川流域では、今でも公共交通機関の渡し船が存続しています。ですが、荒川流域ではついに公私含めて、渡し船は全廃となりました。荒川流域で渡し船が復活する日はくるのか？復活したあかつきには、いの一番で乗船しに行こうと思います。

(学芸グループ 羽田武朗)

学芸員コラム

田んぼのカエルが減っている？

梅雨は、夜間田んぼのまわりでカエルの鳴き声が賑やかな季節です。しかし、近年は田植えが終わってもカエルが鳴かずに静かだ、という話を聞きます。風が強く、夜に気温が下がった日などは、カエルが鳴かないことがあります。最近では鳴いていても特定の種ばかりで、複数種のカエルが鳴く田んぼは少なくなりました。

深谷市内のとある田んぼでは、ヒガシニホンアマガエルや国内外来種のヌマガエルが賑やかですが、大型で存在感のあるトウキョウダルマガエル(関東地方にはトノサマガエルはいない)の鳴き声が数年前から聞かれなくなりました。その原因の一つが農事暦の変化です。

埼玉県内では、イネの田植えは5月上旬前後が一般的ですが、深谷周辺の田んぼでは、イネと秋まきコムギの二毛作が行われ、6月上旬にコムギが収穫されます。そのため、イネの田植えが6月中旬～下旬にずれ込んでしまいます。この田んぼ

に水が入るタイミングが、トウキョウダルマガエルの産卵にとっては少し遅く、ヌマガエルの産卵にとっては好都合なのだと考えられます。

さらに、トウキョウダルマガエルにとって不利なのは、田植えから約1か月後に行われる「中干し(一時的に水を抜く作業)」により、オタマジャクシが上陸前に死滅してしまう可能性があることです。ヒガシニホンアマガエルやヌマガエルは成長が早く、中干し前に上陸できる個体が多いため、トウキョウダルマガエルほど影響は受けないと考えられます。

田んぼという人工的な湿地に適応してきたトウキョウダルマガエルですが、こうした様々な要因によって、次第に数を減らしています。



トウキョウ
ダルマガエル

(学芸グループ 藤田宏之)

8月

～9/23/水祝

特別展「アンモナイト～太古の海からのたより～」

1/土 あそぼう・まなぼう

「ペットボトルロケットをとばそう」

時間：①10:00～12:00 ②13:00～15:00

内容：開館記念と水の日を記念して水の力で飛ぶペットボトルロケットを試射します。

2/日 特別展開連イベント

「挑戦！アンモナイトの石こうレプリカづくり」

時間：①10:00～12:00 ②13:30～15:30

費用：500円

定員：各回15名 ☎

内容：石こうとシリコン型を使ってアンモナイトのレプリカをつくります。

8/土 体験教室「ミジンコを探そう」

時間：13:30～15:00

費用：100円

定員：12名 ☎

内容：ミジンコ類など田んぼの小さな生きものを観察します。

22/土 研究室「漁具のいろいろ」

時間：13:30～15:30

内容：魚の習性を利用した様々な漁具を紹介します。

26/水 スペシャルイベント「樹脂粘土でアンモナイトを作ろう」

時間：①10:30～12:00 ②13:30～15:00

費用：200円

定員：各回6組 ☎

内容：樹脂粘土を使ってアンモナイトの模型をつくります。

30/日 特別展開連イベント「展示解説」

時間：①11:30～ ②14:00～

内容：展示の見どころを学芸員が解説します。

9月

5/土 体験教室「泥染めに挑戦」

時間：13:30～15:30

費用：400円

定員：15名 ☎

内容：2種類の土を媒染剤として用いて布を染めます。

13/日 研究室

「“流れる水のはたらき”の実験を通して水害について考える」

時間：①13:30～ ②14:00～ ③14:30～ ④15:00～

内容：小学校5年生の理科の実験を実演し、水害について学びます。

20/日 特別展開連イベント

「アンモナイトのカラフルレプリカを作ろう」

時間：①10:00～12:00 ②13:30～15:30

費用：100円

内容：プラスチック粘土を使ったカラフルなアンモナイトのレプリカをつくります。

20/日～22/火祝 季節のイベント「シルバーウィークイベント」

時間：10:00～16:00

内容：：スタンプラリーやワークショップなどのイベント各種を開催します。

23/水祝 あそぼう・まなぼう「お月見クイズラリー」

時間：13:30～15:30

内容：お月見にまつわるクイズラリーで十五夜の準備をします。

10月

10/土～12/13/日

秋期企画展「河原の植物」(仮)

12/月祝 研究室

「ふかふかの土の秘密を調べよう」

時間：13:30～15:30

内容：ふかふかの土には小さな隙間があることを実験で学びます。

17/土 体験教室「ジュズダマでプレスレットづくり」

時間：①10:00～11:30 ②13:30～15:00

費用：200円

定員：各回15名 ☎

内容：宮川沿いに生育するジュズダマでプレスレットをつくります。

24/土～31/土 季節のイベント「かわはくハロウィンウィーク」

時間：9:00～17:00

内容：館内各所でハロウィンにちなんだイベントを開催します。

25/日 企画展開連イベント「野草で草木染め」

時間：10:00～15:00 (予定)

費用：500円

定員：20名 ☎

内容：かわはく周辺で採集した植物を使って布を染めます。

11月

1/日 荒川ゼミナール「横瀬の河岸段丘と札所」

時間：10:00～16:00

費用：300円(保険料) 定員：20名 ☎

内容：横瀬川両岸にみられる河岸段丘とそこに所在する札所を巡ります。

7/土 体験教室「土の中の生きもの」

時間：13:30～15:30

費用：100円 定員：15名 ☎

内容：かわはく園内の土から生きものを採って観察します。

高麗川河川敷クリーン作戦

時間：10:00～11:30 定員：20名 ☎

内容：高麗川の河川敷のゴミ拾いと外来植物の除去を行います。

8/日 研究室「河原の植物ウォッチング」

時間：13:30～15:30(予定)

内容：荒川の河川敷で見られる植物を紹介します。

14/土 季節のイベント「かわはく秋まつり」

時間：10:00～16:00

内容：園内各所で楽しいイベントを開催します。

あそぼう・まなぼう「木の実あそび」

時間：①10:00～11:30 ②13:00～15:00

内容：どんぐりなどの木の実を使ってヤジロベエやコマをつくれます。

23/月祝 スペシャルイベント

「かっぱクエスト～ルールを知ってもっと川をたのしもう～」

時間：11:00～12:30 費用：500円 定員：12名 ☎

内容：閉園中の荒川わくわくランドで川の楽しさ・危なさを学びます。

29/日 スペシャルイベント

「おっと、痛快！絵本の読み語りの旅でい～寄居の宿」

時間：13:00～14:30 費用：無料 定員：30組 ☎

内容：郷土出身の絵本作家・飯野和好さんによる読み聞かせとお話を開催します。

ホームページでも紹介しています！

<https://www.river-museum.jp>

【お願い】①イベントは諸事情により変更になることもあります。ご了承下さい。②☎印のついた行事は事前申し込みが必要です。費用に「保険料」が含まれるイベントの申込締切日は、各イベント開催日の2日前までです。③定員になり次第締め切ります。

■編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地
TEL/048-581-8739(学芸グループ) FAX/048-581-7332
ホームページのフォームからお問い合わせいただけます。
<https://www.river-museum.jp>または「かわはく」で検索
X(旧Twitter)やInstagramでもイベントの配信を行っています。
かわはく HP トップページ二次元コードはこちら →

彩の国
埼玉県



2026年7月17日発行